



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

絵本を読むとき、登場人物に合わせて声のトーンを変えたり、イメージを考えて抑揚をつけた方がよいのか。いかがでしょうか？



絵本講座「こどもの夢の歩み」 講演会終了後のQ&Aより②

◆ふつにお読みになるのが一番いいんです。どうしても節をつけたりだとか、セリフのように読みたければ、私はあえて否定はしませんけど、そういう文章がしつかりとした文章で書いてあれば、ごく普通に読んでやっただ方がいいんじゃないか。やはりそこにいる工夫して演ずるのではなくて、読むだけの方が、私は好きです。◆子どもは、言葉と絵の方から自分の中でイメージを広げて膨らませていって、子どもは自分で読んでます。声には出しませんが、自分で読んでます。それが想像力というものなんで、それを大切にすることがいいんじゃないか

◆あんまり上手に読み込んでいるとか、セリフをつけて読むとまりますと、「ああ、お母さん、こういう読み方をしたな」とか、「あそこで面白い声を出したね」とか、そういうことになりませんから、ごく普通に読んでやっていいと思います。◆また、ごく普通に読んでやって、子どもが喜ぶような文体でちゃんと書いてなければ、それは絵本としてはおかしいということですね。◆石井桃子先生やなんかの文章を読みますと、特にセリフのようなものは書いてらっしゃいませんけど、石井さんの日本語はほんとにすごい日本語ですからね。生活感が非常に豊かにありますから、そういうものが、子どもは、言葉の体験として持つ方がいいんじゃないか

子どもを寝かせる時に、自分でストーリーを考えて即興でお話をすることもありますが、子どもに悪い影響を与えることはないでしょうか？



◆ないと思います。お母さんの今の話を聞いていると、お母さんと子ども

なあと感じます。◆瀬田さんの文章は、日本の古代からある調べというものをほんとによく活かしてらっしゃいますから、これは日本語の誰が読んでも、その調べが一番好きです。その調べは、そういうもので、言葉というもののいろいろな働きがあるんだという、そういうことを体験するのがいいんじゃないかなあと、私は思いますね。

絵本づくりの原点

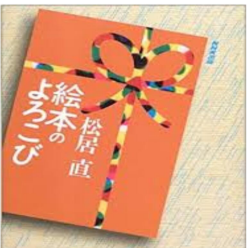
私が茂田井先生にお会いしたのは多分たった5回だけだったと思う。(中略)それは私の人生にとっても、編集者としての歩みの中でも、決して忘れることのできぬ大きな影響を残し、限りなく深い喜びとなった。恩寵というに等しい思いがする。とくに深く話し合ったわけでもない。特別な導きを受けたわけでもない。全く著者と編集者の通り一遍の仕事上のつきあいであ

る。にもかかわらずその経験の中から、私は尽きることのないはげましの教えと、喜びと、悲しみを与えられた。最も純粋なさし絵芸術の本質をみることにできた。茂田井武先生の『セロひきのゴーシュ』は、私が絵本のさし絵を考え、絵本を編集する際のまさに原点である。原点にこの作品があるということは編集者として何と恵まれているのか。…『絵本のよろこび』より(第8章 絵本事始め P 172: NHK出版 2003年)

絵本の読み方ではないのですが、紙芝居の場合はどんなふうに読めばよいのでしょうか？



◆紙芝居は、絵本とは全く違う文化



Q&Aで紹介された著書

の間には、そういうややこしいことはないと思います。お母さんが喜んでる姿を見るだけで、子どもはうれしいんですよ。◆それは芝居です。あれは芝居です。ですから、台本なんです。絵本は散文が中心です。紙芝居の場合は、セリフを書いてあるんですから、セリフを演じるんです。芝居だから演じなきゃいけない。